

連合との幹部懇談会開催



2015年12月11日、日本労働組合総連合会(連合)との幹部懇談会を開催した。懇談会は定期的に行われ、忌憚のない意見交換を行っている。連合からは、神津里季生会長、他14人が、本会からは、小林喜光代表幹事、他14人が参加した。

連合の逢見直人事務局長からは「働き方と雇用のあり方に関する諸課題」について、小林喜光代表幹事からは「官民対話など最近の政策論議」についての問題提起があり、意見交換を行った。

本会幹部からは、「大企業では、AI

やIoTなどの活用により生産性を上げている。中小企業でも活用が進むよう、産官学労で協力して、日本の構造を変えていくべき」「女性の活躍はかつてないスピードで進んでいる。女性活躍推進法の成立により、女性の活躍は大きく変わるだろう。キー

ワードはテレワークだ」「社会構造全体を変えなければならないことに、異論はない。個別の問題を労使でどんどん取り上げていくべき」など建設的な発言が相次いだ。

そのほか、サービス産業について、「優秀な人材が集まらないので、多角的な検討が大切だ」「労働組合の結成率が低く、経営者側へのプレッシャーが弱いことが課題である」「観光業は休日の分散化により、雇用増大が見込まれる」「医療や介護については、今は人手や病床が不足しているが、高齢者人口がピークを過ぎると余剰になるという問題を抱えている」といった意見があった。

最後に小林代表幹事は、「とても広範囲な議論ができ、問題点を共有できた。今後も労使での対話・連携が必要だ」と述べ、会を締めくくった。